

沖縄県ハンドボール協会 スポーツインテグリティ研修会（2023・2・23）

昨日は研修会にご参加頂きありがとうございました。皆さんの「私は、いま、こう思う」を個人が特定できないように加工して一覧にしています。研修会内で「自分の価値観」を言葉にし、ペアディスカッションで「他人の価値観」を知り、この振り返り Paper で同じ研修会内での仲間の「多様な価値観」を学ぶことに繋げてもらえればよいと思います。

体罰はダメだと言うことがわかりました。

体罰暴言はあってなくなるものなので上手く向き合う(学び続ける)というものなのか。それとも完全に排除、排斥する考えなのか。あと5年、10年後がどういう姿になっているか今後に期待したい。本日は研修ありがとうございました。

映像等で流れる体罰をみると、指導者には憎しみや怒りが思いっきり伝わるように感じ、当時私たちが受けた体罰とは全く違うような気がします。そう思い返していくと、自分自身、どこか肯定される体罰があるんじゃないか、それは体罰ではないのではないかと思えてきました。しかし、体罰は絶対あってはならないという正論があり、自分自身今の価値観がどういうものなのか、今日の参加者の意見も参考にしながら客観的に捉えて行きたいと思います。体罰しない派からはっきりとした体罰否定派へ。

体罰は減ってきたと社会の状況から判断できますが、暴言に関しては、人格否定を意図していなくても、受け手がどう捉えるかにもよるので、発信者が暴言についての理解を深める必要があると感じました。時代の変化に柔軟に対応できるようにしたいと考えていますが、体罰、暴言が減少することで、次は何にフォーカスをあてられるのかという心配もあります。今回の研修を機に自己の指導者としての在り方、どのような指導者になりたいかを考えます。本日はお忙しい中、宮古島まで来て頂いて本当にありがとうございました。

指導者として、教師として、大変考えさせられる機会になりました。私は体罰・暴言を受けた経験は無く、当たり前体罰はいけない事だと分かっています。しかし今日のお話はそれ以上に、スポーツマンシップとは何か、指導者として目先の一勝ではなく子どもの一生を考えなければいけない、という事を深く深く学ぶ事ができました。今後の長い教員人生において、どんな子どもを育てるか、そのためにどんな教育者に成長していくか、を重ね重ね考え、行動していこうと思います。大変貴重なお話を聞けて、とても勉強になりました。ディスカッションを何回も入れて、自分の考えをアウトプットし、さらに他の方の意見も聞くことでまた考えが深まる、という方法も素晴らしいなと思いました。お忙しい中、直接宮古島に来て講義を下さりありがとうございました。

自分が良かれと思ってやってきた指導内容、言葉掛け、態度が子ども達を傷つけてしまっていたのかも知れないと、自責の念に駆られました。スポーツをする意義、スポーツ振興の意義を学び、改めて考える必要があると感じています。スポーツ指導に関する価値観を適宜確認し、子ども達の将来を左右する可能

性を念頭に置きながら、素直にスポーツを楽しむ子ども達を育てたいとかがえています。

暴力が体罰は前々から知っていたことですが、今日の暴言は心罰という言葉をしつかり胸に刻みたいと考えました。体罰も心罰も受けながら育ってきた競技人生ではありましたが、指導者となってからは『体罰はしない』と心に決めて指導に当たってきました。その一方、心罰（暴言）については少し自身がありません。相手が嫌だと思ったらそれは心罰。この認識を持って今後の指導に当たっていきたいと思います。理想の指導者像について、指導者を始めた当初は「日の丸を背負って戦う選手を育てる」でした。コーチ研修の際に三輪先生に「次の指導者を育てる」との言葉を伺ったときから、選手として競技人生を謳歌できる手助けを行うのはもちろんですが、次の指導者が育つように声掛け、練習、関係性作りをしていかなければいけないと考えるようになりました。体罰、心罰はしないというのはもちろんですが、いつか自分の関わった選手が日本リーグで試合に出場して、それを応援に行ったり、いつか自分が指導に携わった選手が指導者となり、そのチームと自分の指導するチームが試合をする日を楽しみにして、長い目で見て指導にかかわって行きたいと思います。

今回の研修内容はスポーツ指導だけでなく、子供の躰、学校教育、人との関わりすべてに関わることだと考えています。『体罰以外の指導方法を学ぶ』これが重要だと思います。指導者、教育者は例外なく子供たちが成長してほしいと考えていると思います。そんな中、話を聞かなかったり、悪いことをしたりする人（生徒、子供）にどのようにしたら伝わるのか、どう接したらいいのか、どう声をかけたらやる気になってくれるのかなど、みんなで考え学び続けていくことが必要だと感じます。

高校時代に体罰を受けた経験がありますが、自分の中では、その経験が美学のようなもの、決してハンドボールが嫌いになったり指導をされた先生を恨んでいるような気持ちもなく、現在この場にいるのもその経験があったからだと捉えています。そして、自分自身も体罰的な指導を行ったことがあり、そこは猛省しなければ(同じ過ちを繰り返さない)と感じています。今、思うことは「自分を俯瞰的に見ること」が大切なのかと思っています。

私は指導者という立場では無いので、今回の研修会の内容を自分の子どもで置き換えて考えていました。私は親や教師に体罰を受けたことがあるし、自分の子どもにたく無いと思っています。ですが、私が子どもにしつけの一貫と考えてしていることは、体罰や暴言に当たるのではないか、それによって子どもの自主性を奪っていないか、萎縮させていないかと考えるいい機会となりました。今一度自分の行動を振り返り、子どもに投げかける言葉、行動、振る舞いを見直したいと思います。自分がされてきた指導、しつけだけを是とせず、感情に流されない対応を今後、大会などで関わる子ども達にもしたいと思いません。

受講して私が1番強く思うことは、体罰や暴言は絶対にやってはいけない行為なんだということです。自分の学生時代には当たり前のようであったことですが、今私の周りでは、そのような事案はないのではないと思うくらい時代や環境は変わってきていると思います。ただし、気をつけなければいけないことは、ハラスメントは発言や行動は「本人の意図とは関係なく」という部分です。この部分は真剣に受け止

め、日々の指導を見直していかなければならないと考えます。

小学生を対象にハンドボールを教えています。今日の講義の中で、あなたが描く指導者像の話がありましたが、話を聞いていて納得できることが多くありました。宮古島では、あまりハンドボールを知っている子供は多くないので、私は、指導する立場としては、教育的側面を大切に指導をし、まずは、ハンドボールという競技を知ってもらうこと、そして競技の楽しさを伝えることを第一に考えていましたが、それが、子供達、保護者にどう伝わっているのか。ということに関しては、あまり深く考えたことはなかったなと思いました。体罰、暴言などのことに対しては、もちろんやるつもりはありませんが、今日の講義の感想でもあった、監督の口から、なぜ、なんのためにと理由の説明があったから。と肯定する意見もあったことは、私自身も同じようなことを経験しているので納得しました。これから、体罰、暴言をやらないことが徹底された指導を受けた子供達が将来どのような指導をして、変わっていくのか楽しみです。

とても素晴らしい研修でした。他人を思いやるためにも、自分自身の成長のためにも、他者への思いやりと自分の向上心を失わないで生きていく事が、どれだけ大切か考えさせられました。しかし、人間というのは忘れやすい動物だと思います。今日は感動していても、1週間後は忘れてお酒を飲んでいる可能性があると思います。私は指導者ではないのですが、宮古島の1人のハンドボールプレイヤーとして、今日の事を時折思い出せるように、そして宮古島のハンドボールの環境がもっと良くなるような協会の組織作りや、サポートを行なって行きたいと思います。宮城会長、三輪先生、本日はありがとうございました。

体罰はダメだと分かりました。今回、このようなお話を聞いて良かったです。小学生の頃担任の先生にやってもいないことで指導されたことが今でもずっと心に残っています。あの思い出があるから今は、子どもたちに対して頭ごなしに怒ったり指導することはやめようと思いました。また、私達も先輩方からやってもらったことを、次世代に繋げようと今取り組んでいるところです。子どもたちのより良い未来のために力を注げる人間になれるようにします。本日はありがとうございました。

私は、体罰はあってはならないと感じていました。私自身も、厳しい練習や、叩かれたり、色々言われたりしてきた経験があります。でも、その経験が今につながっている事があることも事実です。この経験があり、本日の講習を受けて、改めて体罰について考えることができました。指導者として、どうあるべきか。私は、目先の一勝より、この子の一生という言葉が強く印象に残っています。子どもたちの将来を考えて、指導ができるように、体罰や暴言に頼る事なく、自分の心からこの子たちに対する気持ちを持った指導ができるようにしていきたいと思います。そして一生繋がる人間関係のもてる、心の師となる指導者を目指して行きたいと思います。

今、自分のやってきたことを振り返っています。今後の指導にどう生かすか？自分自身をどう成長させていくか？人材育成にどう生かすか？課題山積ではあるが、本競技でもできることから始めていきます。良い機会でした。ありがとうございました。

私は過去に体罰とも取れる指導を受けた経験があり、それによってある意味しぶとい人間になったな
と思い、体罰を否定しきれずにいました。今回の研修を受け、そのしぶとさが怒られなければ行動できな
い人間であるということを教えていただき、体罰は良くないことだと認識を改めようと考えました。最後
のスライドでこの研修会を始まりとしなければならないという言葉や、報道された教員の話があり、自己
を変える事の難しさや、体罰や暴言の影響の強さ、これまでの価値観を変えていく難しさを強く感じまし
た。私は指導者という立場ではありませんが、日常生活や子供達への接し方、また家族との関わりかたを
考える良い機会になりました。

宮城会長、三輪教授、ご講話ありがとうございました。私自身、体罰と暴言は、いけないことであると
十分理解しているつもりです。体罰と暴言で子どもたちを従わせる指導はもはや指導力不足の大人、教
員がすることだと思っています。しかし、無意識でやったり、熱が入りすぎてやったりすることが、もし
かしたら今後あるのではと思っています。自分自身の弱さから言動に至ってしまうのではないかと自信
がありません。このような研修会を通して、研鑽を今後も重ねていくことが、自分自身の体罰と暴言を防
ぐ抑止力になるかと思います。また、この研修内容を周りへアップロードしていくことも大事であると感
じました。私自身まだまだ未熟であること、常に学び続けること、成長していくことを信念として持ち、
コーチ、選手、保護者、社会全体の幸福につながるよう、プレイヤーズセンターができる指導者を志し
ていきたいという決意が持てました。